

自然をつなぎ、歴史をつむぐ古民家の改修

1 設計主旨

集落に広がる豊かな自然と古くから残る古民家の歴史をつなぎ、つむぐ住まいを提案する。住まいの外周を土間で囲うことで暮らしと自然とのつながりをもたせ、木造の軸組みの新旧を対比的にあらわされるように改修を行う。周辺環境との調和をはかりながら、自然環境を活用した豊かな生活がこの古民家の歴史を新しく未来へ繋ぐ。

2 自然をつなぐ

集落の豊かな自然と住人の暮らしをつなぐために、土間が生活空間を取り巻くように配置している。土間空間は建物外部の自然と内部の生活の中間領域となり、ゆるやかに双方をつなげる。生活が自然につながることで、風や光、音といった自然環境を建築内部に取り込むだけでなく、趣味や遊び、仕事などの生活空間が建築内部にあふれ出る。生活空間を囲うように配置された土間は住人の回遊性をもたせ、家路のほろほろニュアーンションを誘発する。

① 自然の中の息の通い場、種から土間を通つてまのままステップへ土間でつながるワークスペース、選別的に趣味のスペースを定める

3-1 新旧の対比

古い木材の構造体に覆いかぶさるように新しい木材の構造体で補強しており、建築内部からその違いを感じることが出来る。新しい京都産の木材の暖かみと、趣があり歴史が感じられる古い木材を対比させることで、互いの精微がより強調されるようにデザインしている。

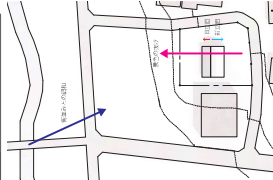
3-2 街並みとの調和

本作品の北側半分は歴史的な外観をそのまますたし、集落の入り口であり、建築内部から見たときに前述のとおりである。一方北側の新しい壁・屋根はこの家の歴史となつてはいるが、空気の流れるデザインすることで、際危的に重要な機能を果たしている。

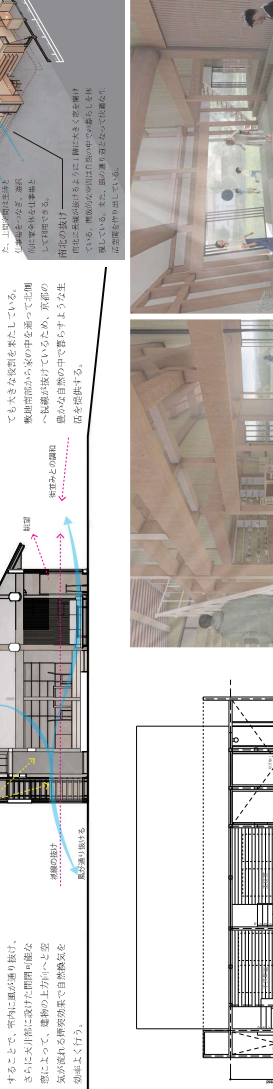
3 歴史をつむぐ

歴史を継承することは重要である。古くからある建物は日本の文脈・風土に適つたつくりになっており、既述においても十分に機能を実現しただけでなく、風の通り道を作るなどのハッシュアップデザインは建築の歴史を継承を促す。

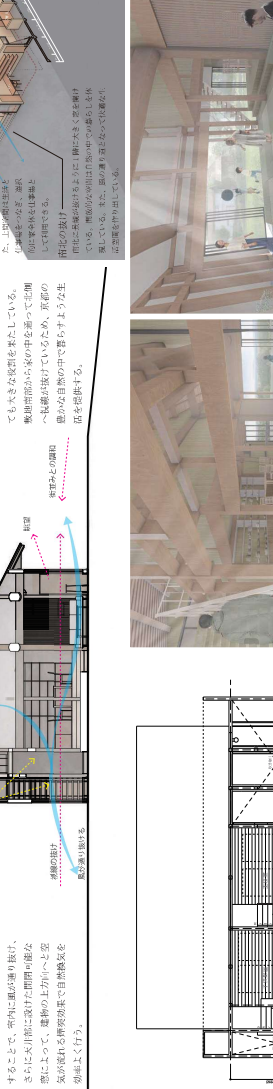
4 敷地



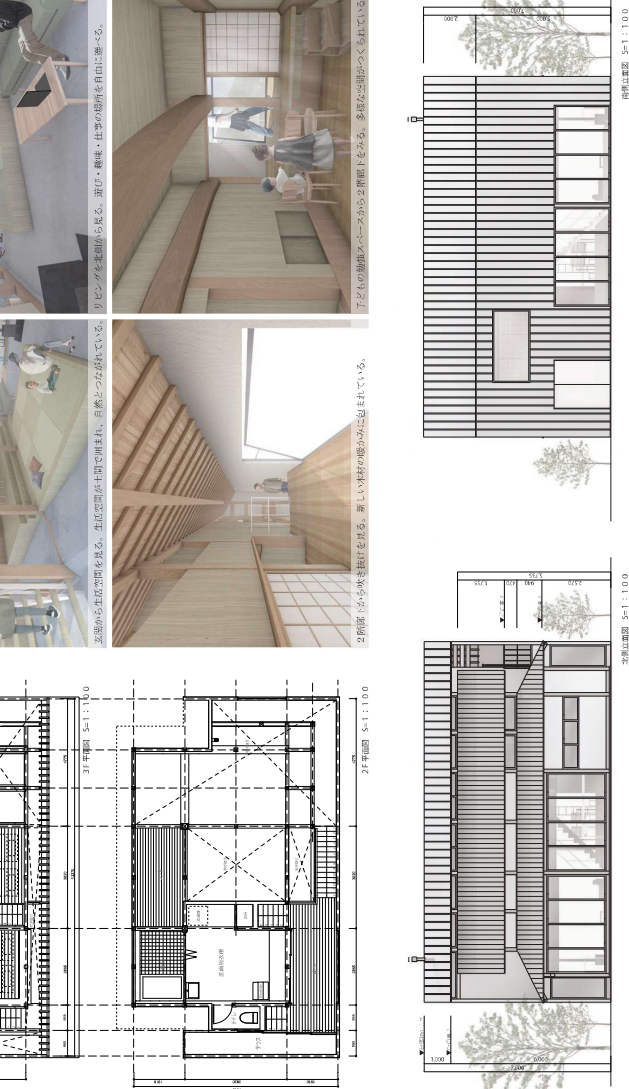
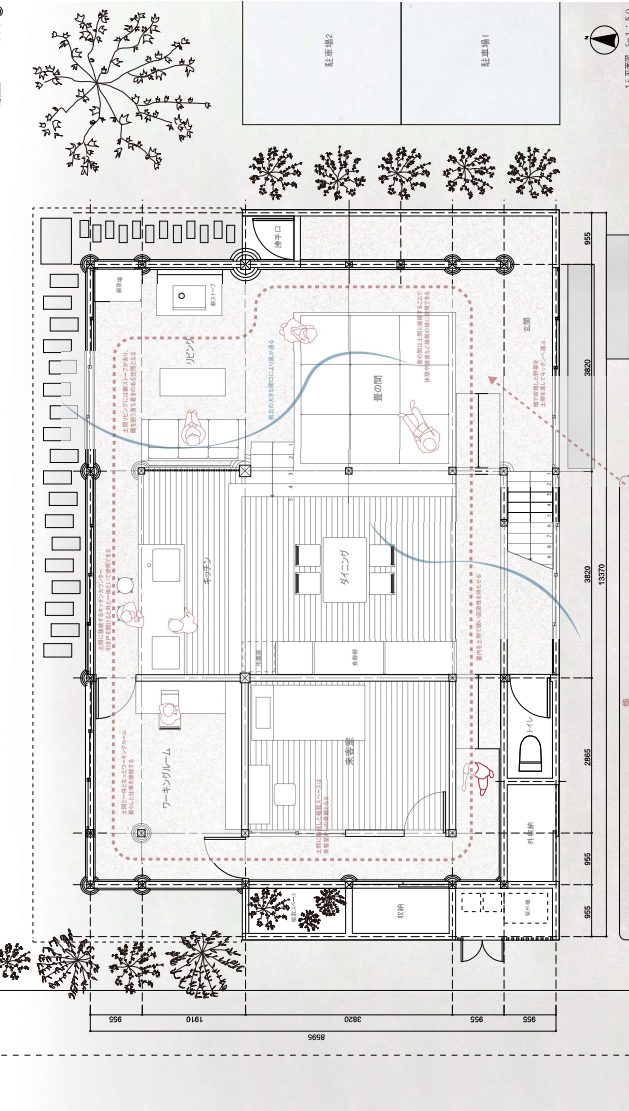
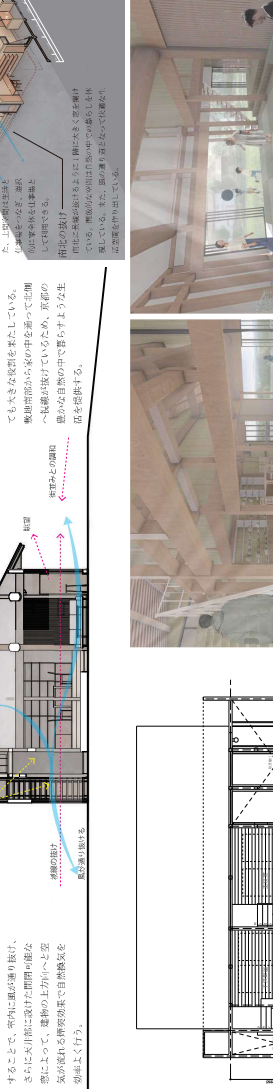
5 断面構成 / アイテム図



6 全体構成 / アイテム図



7 環境計画



8 断面構成 / アイテム図

